

第2回「シルバー産業の国際展開に向けた課題の整理・分析」研究会  
(通称小尾研究会)

議事録

日時： 平成28年1月29日(金) 13:00～15:00

場所： 経済産業省本館7F西1会議室

出席者： 小尾座長，大西企画官，片山委員，風間委員，河野委員，小島委員，  
齋藤（井伊委員代理），佐野委員，玉巻委員，野田委員，沢田（矢野  
委員代理），山本委員，和久委員，渡（武井委員代理）

議事内容：

第2回研究会は下記の議事進行に従って行われた。

1. 冒頭，座長の小尾教授及び経済産業省サービス政策課大西企画官からあいさつがあった。
2. 小尾座長がシルバー産業の国際展開に向けた課題に関して，国連の取り組みを中心に国際的な傾向を解説した。
3. 5人の委員からプレゼンテーションが15分ずつ行われた。発表者は以下のとおり。
  - 1) 安井建築設計事務所 佐野社長
  - 2) NTT データ 風間センター長
  - 3) 情報通信ネットワーク協会 片山専務理事
  - 4) 情報サービス産業協会 河野専務理事
  - 5) NTT 東日本 齋藤本部長補佐役（井伊常務代理）
4. プレゼンテーションを受けて，質疑応答及び自由討議が行われた。委員からの主な意見は以下のとおり。

小尾座長： 日本国内モデルは国際展開の有効性に課題があり，世界では通用しない。日本は少子・高齢化・人口減少社会が進行中であり，世界は少子・人口減少ではなく違うパターンで高齢化が深刻になっていく。つまり日本型を修正した国際モデルが必要である。

片山委員： オリンピックを機会に日本モデルを世界に発信すべきである。途上国に対し，個別ではなくパッケージでの展開も大事。技術もトータルシステム化が有効。

小島委員：アジアとアフリカでは“規模やレベル”が違うので、進出する際の戦略も異なる。

野田委員：NTT東日本のシンガポールにおけるICTを活用した健康管理（慢性疾患の予防策モデル）の実証事例は興味深い。日本とシンガポール双方の多分野の機関との連携ケースでは、日本政府の支援も大事。

山本委員：スマートシティには医療分野が必要。中央アジア諸国を調査したが、各国事情はかなり違う。

玉巻委員：外国人の来日数が急増。インバウンドによる“国内の国際化”も大事。医療分野も小売業も対応が急務。

山本委員：玉巻委員の視点は重要。メディカル・トラベル振興などに向けて国際病院の早期普及が必要。

沢田（矢野委員代理）：

“自動運転”は国際連合で国際標準化作業が始まった。日本自動車工業会は高齢者向けの安全運転教材などを配布中。

佐野委員：各国のニーズに合致するデザインができる人材育成が必要。

和久委員：“グローバル”の視点でのビジネス展開が重要。地域コミュニティ解決型の社会作りは世界で共通の認識となっている。

風間委員：規制改革など制度面の改善を早急にしないと、フロントランナーの実力が発揮しづらい。

渡（武井委員代理）：

中国で糖尿病対策事業を展開中。予備軍対応の予防重視の仕組みを制度化できないか検討している。

小尾座長：国民皆保険や介護保険など日本の先端システムの国際展開は重要。

齋藤委員（井伊委員代理）：

先ほどのシンガポール事例などの教訓だが日・アジア間医療機関のネットワーク強化が有効。

河野委員：ITサービス分野のアジア進出は異業種との連携で対処可能である。

以上